

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：34314

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02726

研究課題名（和文）研究大学における持続可能な学修支援のあり方についての日中豪三国の比較研究

研究課題名（英文）Comparative Research on Sustainable Learning systems of Research Universities in Japan, China and Australia

研究代表者

山内 乾史（YAMANOUCHI, Kenshi）

佛教大学・教育学部・教授

研究者番号：20240070

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：日中豪三国の研究大学における学修支援システムを比較検討し、研究に多大なプレッシャーがかかる研究大学の教員に対して、大学としてどのような学修支援システムが用意されているのかを比較検討した。中豪いずれにおいても、研究大学であるだけに、世界各国から入学してくる留学生が増加している。これら留学生はいかに優秀とはいえ、やはり様々なサポートを必要としている。日中豪いずれも学修支援に加え、心理的支援、経済的支援のシステムを構築しようとしているが、留学生の多い中豪両国の場合、特に留学生に特化したシステムが構築されている点が大きな特徴であると考えられ、今後の日本の研究大学にとって課題となると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は一般的な学修支援を論じたものではなく、研究のプレッシャーが教員に大きくかかる研究大学において、いかに学修支援システムを構築していくのが望ましいかを検討したものである。その結果、中国とオーストラリアの研究大学では留学生（大学院生を含む）のサポートシステムの充実に注力していることが明らかになった。ことにオーストラリアでは「大学教育」は重要な輸出品目であり、より多くの留学生の獲得を巡り、他のアングロサクソン諸国と競合しているため、中国、インド、インドネシアを中心に留学生獲得のためにサポートシステムの充実に訴えていることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：I have examined learning support systems of famous research universities in Japan, China, Hong Kong and Australia with comparative method. As a result, I have found that all of these universities of three countries have tried to establish support systems especially for foreign students, but all of them are suffering financial problems.

研究分野：教育社会学

キーワード：高等教育 研究大学 学修支援 中国 香港 オーストラリア

1. 研究開始当初の背景

現在、研究大学では目減りしていく研究費の獲得を目指し、日々研究を巡る競争が激化している。しかし、その一方で、教育を巡る担当量が増し、教育のプレッシャーも教員に相当のしかかっている。その中で研究大学は、どのように学修支援システムを構築しているのかを、留学生の獲得に積極的な中国（香港を含む）、オーストラリアの二か国との比較を通じて明らかにしようとした。

2. 研究の目的

現在、学部・大学院ともに教育の質保証の観点から授業及び学生への個別指導をしっかりと行い、学修支援のシステムをしっかりと構築する必要に迫られている。当然、このプレッシャーはすべての大学にかかるのであるが、ことに研究大学においては、研究費の獲得を巡り研究のプレッシャーも大きくなっており、大きな葛藤が生じていると考えられる。このような状況の中、研究大学ではどのようにこの葛藤を解消しようとしているのか、中国、オーストラリアの研究大学との比較を通じて日本の研究大学の特色と課題を明らかにすることが本研究の目的である。香港についてはアンブレラ革命の直前に訪問し、調査を終えていたが、中国本土からの「留学生」が多く、しかし、彼ら/彼女らの多くが広東語を十分に理解できないという問題があり、学修支援をどのようにしているのかを検討しようとした。また、オーストラリアにおいては、留学は国家にとって重要な「輸出品目」、外貨獲得の手段であり、留学生が多く、しかも調査開始時には増加していた。これらの留学生に対する学修支援システム、それからドメスティックな地元からの進学者に対する学修支援システムをいかに整備しているのかを検討しようとした。それらをもとに日本の学修支援システムの特徴と課題を明らかにすることが本研究の目的である。

3. 研究の方法

日本はもちろん、中国、香港、オーストラリアの研究大学等を訪問調査し、学修支援システムの構築法・内容を比較検討する。日本については特に北海道大学、東北大学、九州大学、長崎大学を取り上げ、中国は中国本土と香港の双方において、北京大学、北京外国語大学、北京交通大学、大連海洋大学、香港中文大学などを訪問する予定であった。オーストラリアについてはメルボルン大学を対象とした。これら以外の中豪の研究大学については、オンラインでの関係者へのインタビューや文献調査で補うこととした。

しかし、残念ながら中国に関しては、大連は訪問できたものの、北京についてはコロナ禍のため、十分な調査ができなかった。二年間研究期間を延長し訪問の機会を得ようと努力したものの、渡航費が高騰したうえに、ビザが必要になったため、研究継続を断念せざるを得なかった。

4. 研究成果

2020年度までの研究成果については、2020年9月に刊行した拙著『「大学教育と社会」ノート - 高等教育論への誘い - 』（学文社刊）の第 部にまとめた。その後の研究成果については、コロナ禍のため日本に研究対象を絞り、濱中淳子（研究代表者）「基盤研究(B)現代日本における『大学生の学習行動』に関する総合的研究」（研究課題/領域番号 20H01647）2020年度～2023年度による研究成果と合わせて、山内乾史・葛城浩一（近刊）『キャリアを重視する 中堅大学生の学び』、濱中淳子・葛城浩一編（近刊）『学生たちの学びのリアル（仮）』勁草書房にまとめた。この近刊の論文においては、研究大学を取り扱ったものではないけれども、大学院の後期課程を有する私立中堅大学において、研究活動が学生からはどのようにみられているのか、教員の教育への取り組みはどのようにみられているのかを検討した。

中国やオーストラリアと比較して日本の学修支援システムの多くは、日本人がターゲットになっているのが目立つ。つまり、留学生の支援がかなり手薄になっている。運営費交付金、研究費が潤沢な研究大学においてさえ、そうであり、文献調査の限りでは一部の「国際」を看板とする大学を除いてまだまだ留学生の支援は不十分であるといえる。今後、留学生の獲得に力を入れていくという方針が揺るがないものとするならば、留学生に対する支援の充実が必要なのではないだろうか。

また日本人学生に対する支援においても、オンラインによる相談システム・学習システムの導入など、コロナ禍を受けて注目すべき進展はあったけれども、組織が特定個人を中心に運営されているケースが多くみられ、その特定個人が転出や退職ということになると、たちまち機能不全

に陥るという問題があり、サステナビリティの点から問題があることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 米谷淳・山内乾史	4. 巻 30
2. 論文標題 ピアサポートと学習支援 2.九州大学における学習支援と障害学生支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大学教育研究	6. 最初と最後の頁 149-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山内乾史	4. 巻 30
2. 論文標題 教養教育における少人数ゼミに関する一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大学教育研究	6. 最初と最後の頁 159-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山内乾史	4. 巻 30
2. 論文標題 大学とローカリティ（その2）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大学教育研究	6. 最初と最後の頁 171-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 近田政博・山内乾史・小川啓一	4. 巻 29巻2号
2. 論文標題 コロナ禍において外国教育研究を行う大学院生が直面する課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際協力論集	6. 最初と最後の頁 79-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山内乾史	4. 巻 29
2. 論文標題 神戸大学 大学教育研究センター/大学教育推進機構の歴史と考察()	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大学教育研究	6. 最初と最後の頁 159-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ショウ・セイイ 山内乾史	4. 巻 28
2. 論文標題 中国の専攻別評価システムとその課題についての研究 日本への示唆	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学教育研究	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 米谷淳 山内乾史	4. 巻 28
2. 論文標題 ピアサポートと学習支援 1.北海道大学と東北大学での面接調査をもとに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学教育研究	6. 最初と最後の頁 87-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 米谷淳 山内乾史	4. 巻 477
2. 論文標題 世界の学習支援 メルボルン大学の生き残り戦略と学習支援(連載 世界の大学に見る学習 第37回)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文部科学教育通信	6. 最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米谷淳 山内乾史	4. 巻 478
2. 論文標題 世界の学習支援 香港中文大学のLEOと学科と書院による学習支援(連載 世界の大学に見る学習 第38回)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文部科学教育通信	6. 最初と最後の頁 20-22
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 近田政博・山内乾史
2. 発表標題 コロナ禍において外国教育研究を行う大学院生に対する研究指導上の課題
3. 学会等名 第57回日本比較教育学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 山内乾史	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 254
3. 書名 「大学教育と社会」ノート-高等教育論への誘い	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------